



なは市民の友

第628号 毎月1回発行
2003年(平成15年)
5月

市の人口と世帯	
* ()内はうち外国人	
2003(平成15)年3月末現在	
総人口	307,519(1,769)
男	148,637(878)
女	158,882(891)
世帯数	120,161(1,003)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	87,312
真和志	105,368
首 里	58,406
小 禄	54,664

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(協)丸正印刷



跳べうりづんから若夏へ

波の上ビーチが海開き

前日までの雨も上がり、ウリツンベ(うりづん南風、うりづんは旧暦2月・3月のころをいう)の吹く、4月6日(日)、波の上ビーチの海開きが行われた。

子どもエイサーやマーチング演奏のオープニングアトラクションに続いて、翁長市長が「県から優良ビーチに指定されており、市内の身近なビーチとして安心してご利用いただけます。市民・県民はもとより、観光客のみなさんにも那覇の海を楽しんでいただきたいと思っています」とあいさつ。

子どもたちが高らかに海開きを宣言すると、関係者のテープカットを合図に、待ちかねた水着の子どもたちが次々と海に飛び込み、初泳ぎを満喫した。

ビーチでは宝さがし、魚のつかみどり、綱引き、ライブ、沖合いではマリンスポーツ体験など、プログラムも盛りだくさんで沖縄の海の季節の到来をアピールした。

利用者も年ごとに増え、昨年は253,000人余が波の上ビーチを訪れたという。

時期はうりづんから若夏(旧暦4月・5月)へとうつり、今年も真っ黒に日焼けした笑顔が水しぶきの中にはじける。書物を開くと「若夏がなれば心浮かれて玉水にありてかしらあらは」(初夏になると心が浮き浮きとして、美しい水辺に降りて髪を洗いたいものです)という琉歌が目にとまった。

主な紙面

- (2面) ペットボトルはリサイクル資源です
- (3面) 壺屋でシーサーの日
- (4面・5面) 新都心銘所庁舎が完成！
- 5月中旬から事務室の一部が移転します
- (6面) 演劇ワークショップが舞台発表
- (7面) 情報PACK

市長談 2 TAIDAN ②



こがちひろし
古我知 浩
(沖縄リサイクル運動市民の会代表)
フリーマーケットやエコロジイイベントの開催など幅広く行い、市民運動をテーマとしたシンポジウムなども多数開催。環境省環境カウンセラー、県リサイクル推進協議会委員、県環境審議会委員。

翁長雄志市長 これまでの古我知さんの活動は、那覇市の環境問題に積極的に取り組まれており、深く感謝します。

最近では、小学校の子どもたちに「買い物ゲーム」というものを体験させ、その中から環境問題を実感させているようですが。

古我知浩さん 実は、このたび「買い物ゲーム」という本ができて、全国の書店に並ぶことになりました。

市長 沖縄での体験学習そのものが全国へ発信されるんですね。

古我知 そうです。おおぜいの子どもたちに体験してもらいたいと思います。環境の問題は、あまりにも課題が大きすぎて、身近な生活の中では実感がわきづらいものです。そこで子どもたちに「環境と自分達の暮らし」がつながっているのだと、イメージできるようなプログラムが必要と感じ、このゲームを考えました。

市長 具体的にはどういったものですか？

古我知 教室に模擬店舗を作り、子どもたちによるグループで、カレーの材料を買ってもらい、おつりが多く残ったグループが勝ち、ということで購入物をしてもらいます。

おつりを計算したあとに、今度はごみの処理について考えてもらいます。トレイやペットボトル、容器包装のごみ処理費用の代金を、残ったおつりから引きします。すると、私たちの普段の何気ない

買物が環境または税金に影響しているというところに話して発展させていくのです。

市長 私は、那覇市を世界一美しいまちにしたいと思うのですが、それと同時に、今回のイラク戦争などもそうですが、地球規模で環境が破壊されているのが現状です。そのなかで、環境保全を訴えることに、むなしさを感じる人が多いのですが、子どもたちにそういった問題をどのように話しているのですか？

古我知 私たちが感じているジレンマは、素直に子どもたちに伝えたいです。

そこで自分たち一人ひとりができることは何だろうと考えてもらい、それを発表してもらいます。たとえば、買い物に行く時はマイバックを持って行くとか、企業マイカーに、トレイやペットボトルを使わないでくださいと、お手紙を書くとか、行政にお話を聞く、といったことを提案します。自分たちの力で、社会を変えていくのだという発想を持つてほしいと思います。

市長 子どもたちの素直な思いが原動力となって、社会を動かすことができますと私も思います。

